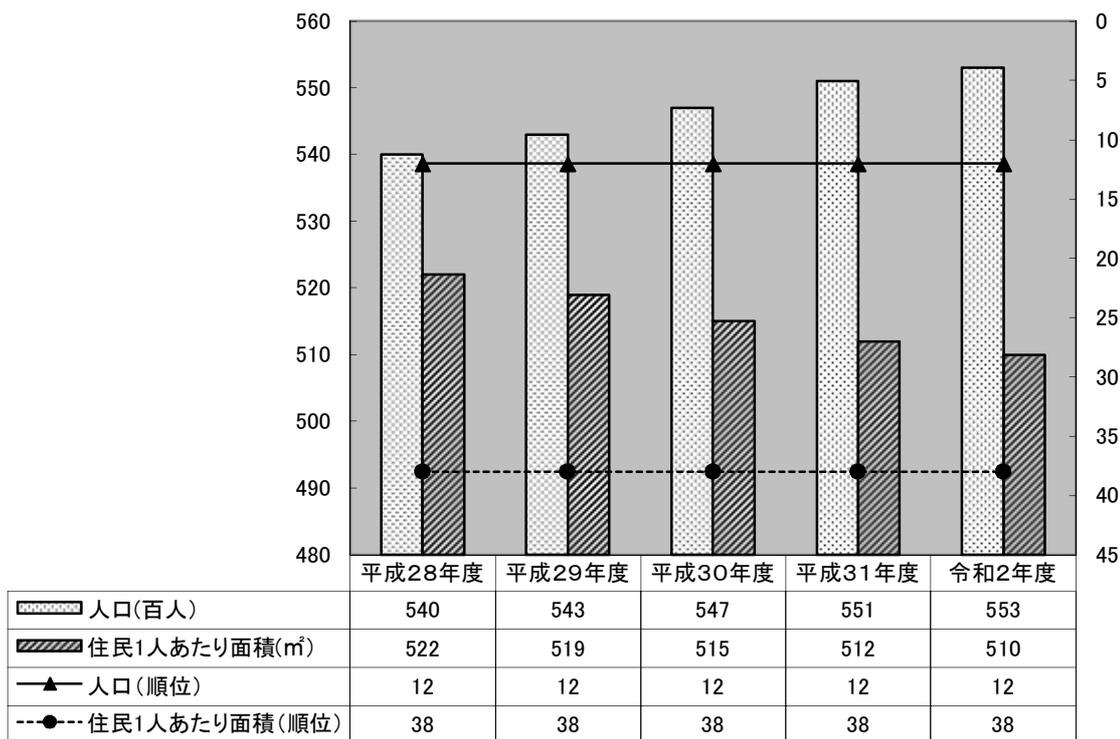
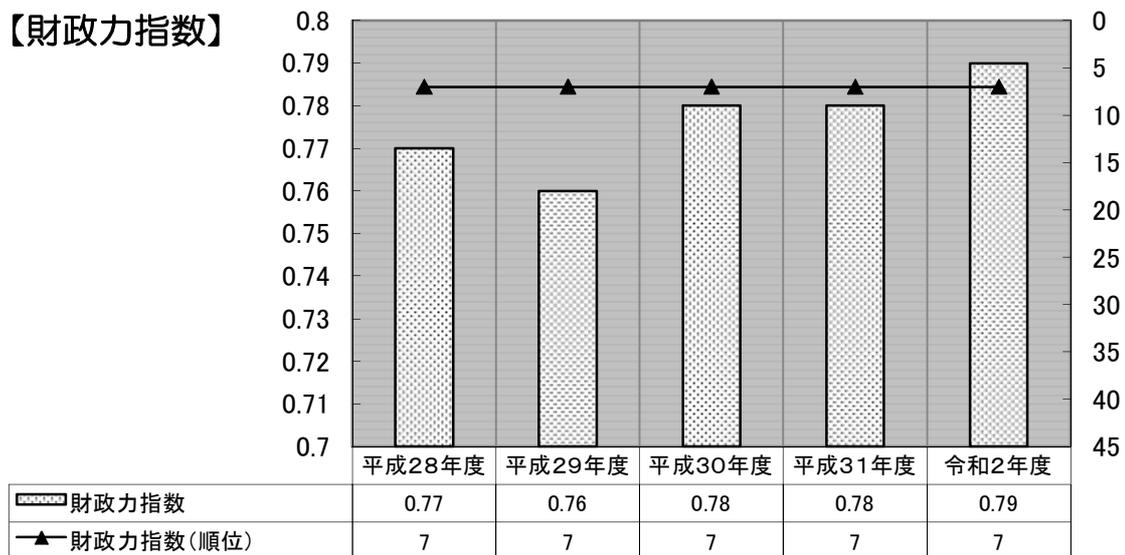


## ○瑞穂市の人口



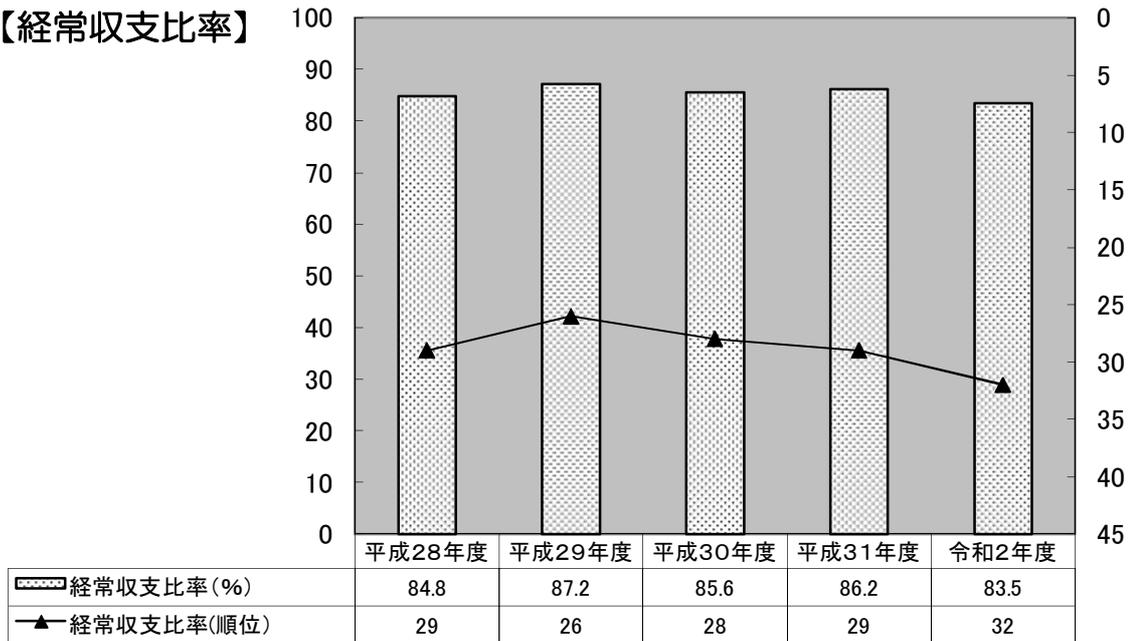
【分析】瑞穂市の人口は合併以降年々増加しており、今後しばらくは増加が見込まれます。令和2年度の人口については、前年度比で200人増加しています。

## ○財政状況の比較



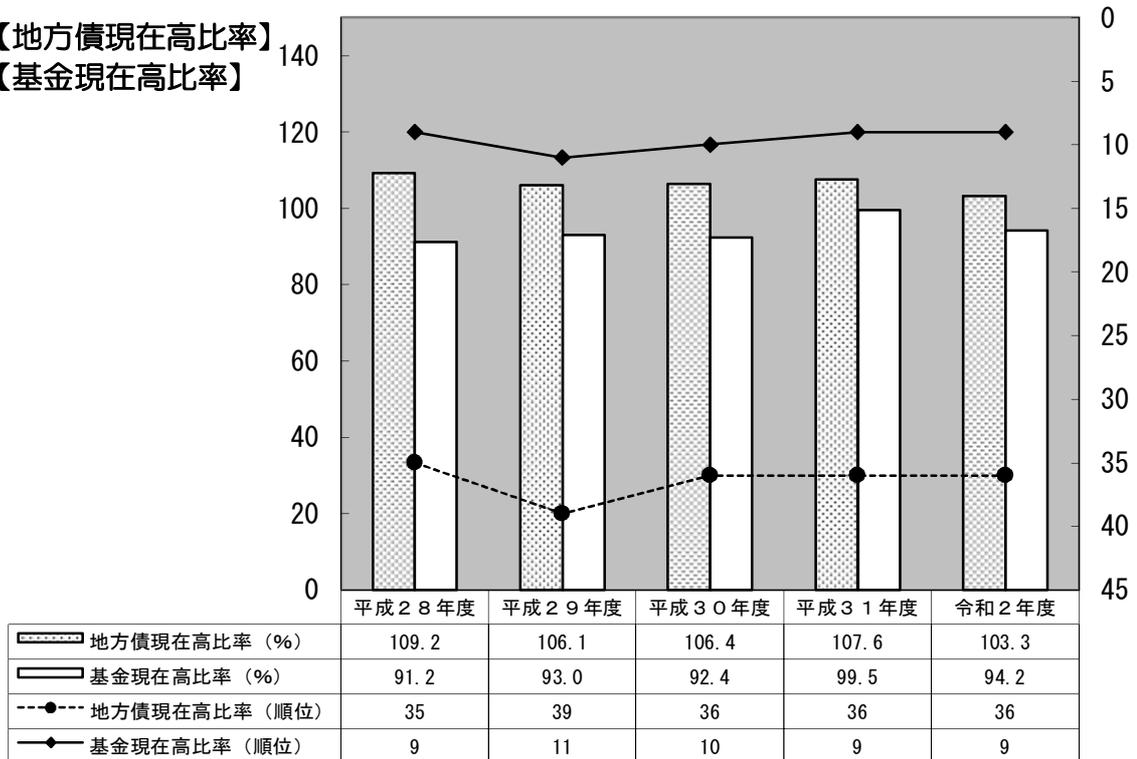
【分析】近年、プラス・マイナス0.01の幅で増減し、安定した推移をしています。令和2年度は0.01ポイント改善しました。いずれの年度も県内平均値は大きく上回っています。

【経常収支比率】



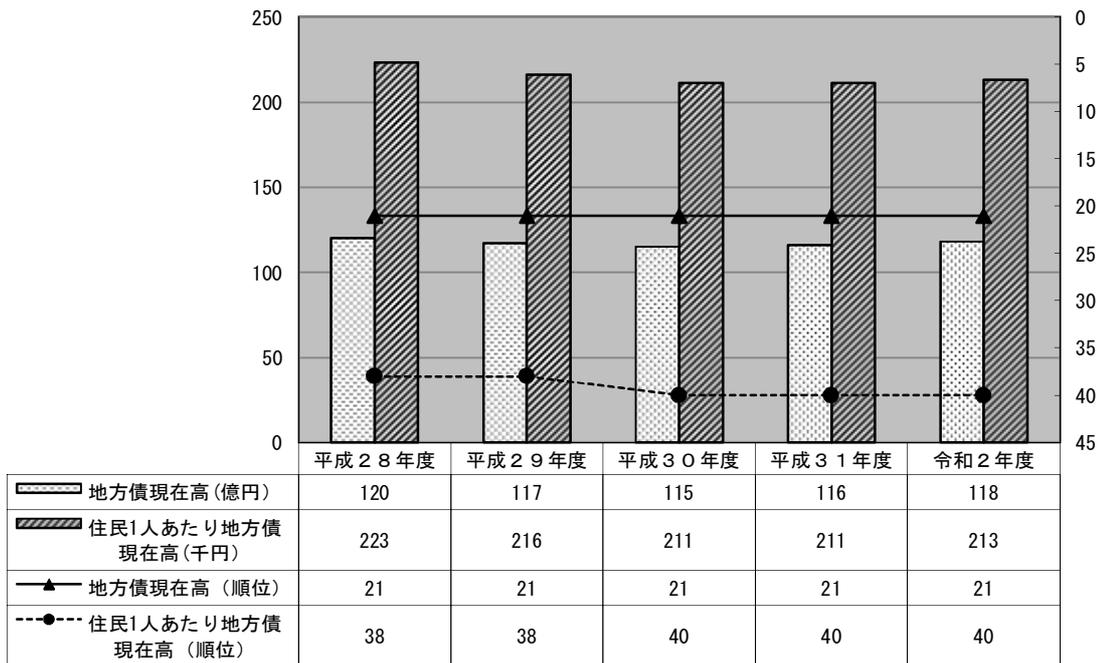
【分析】 例年、歳出は上昇傾向にあります。令和2年度は地方消費税交付金等の歳入増の一方で、歳出は新型コロナウイルス感染症の影響で、事業中止等もあり、経常的経費が減じたことにより、前年度比では2.7ポイント減少しました。

【地方債現在高比率】  
【基金現在高比率】



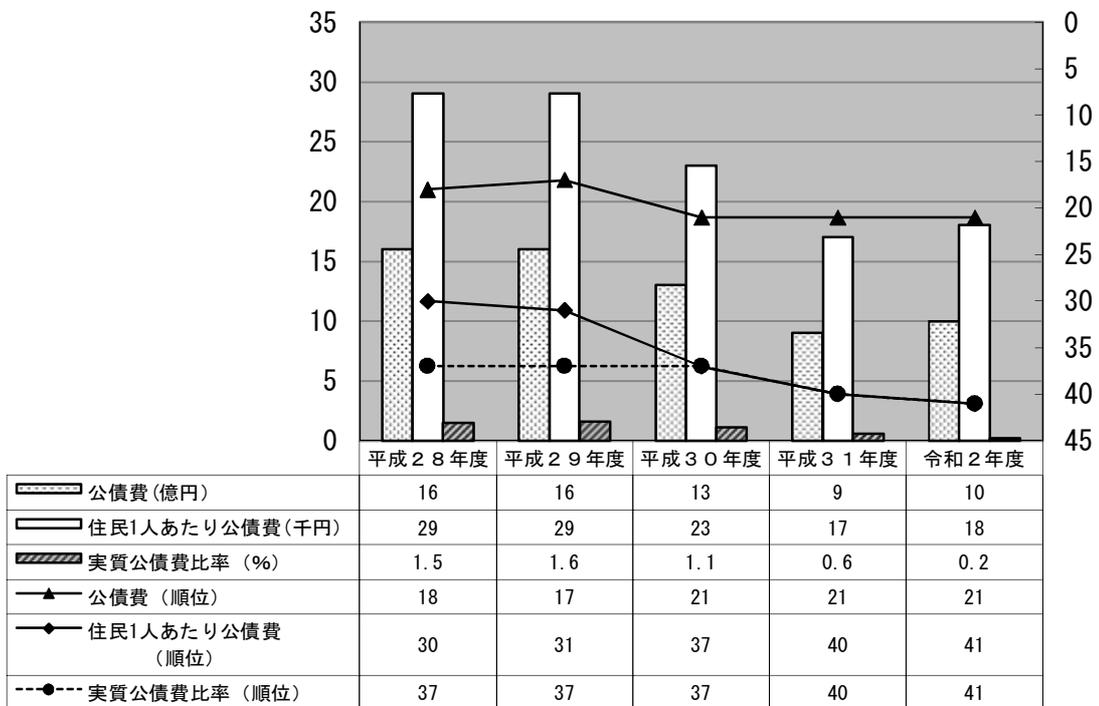
【分析】 令和2年度は地方債残高については前年比で約1.4億円増え、基金については、庁舎建設基金の他、下水道事業対策基金へ積み立てましたが、財政調整基金と公共施設整備基金の取り崩しがあり、全体では12百万円減少しています。地方債現在高比率と基金現在高比率が減少しているのは、分母である標準財政規模の増加が大きかったためです。

## ○地方債における比較



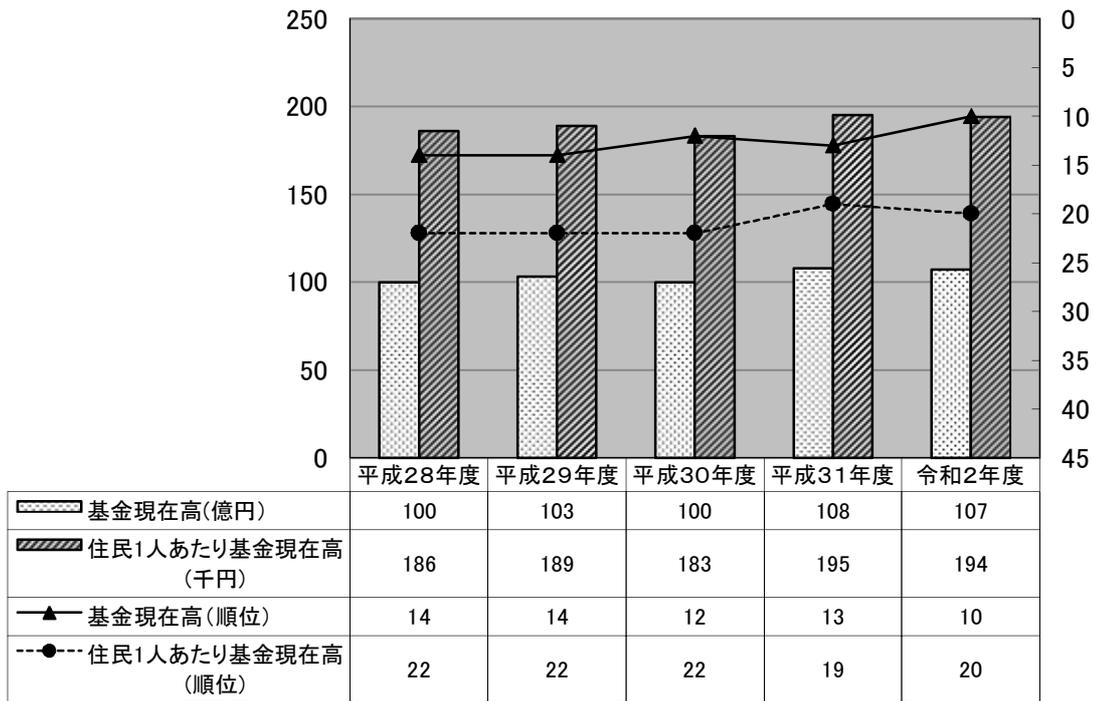
【分析】平成28年度から平成30年度までは繰上償還により、残高は減少していました。平成31年度、令和2年度は繰上償還を実施しておらず、地方債残高は増加しています。

## ○公債費における比較



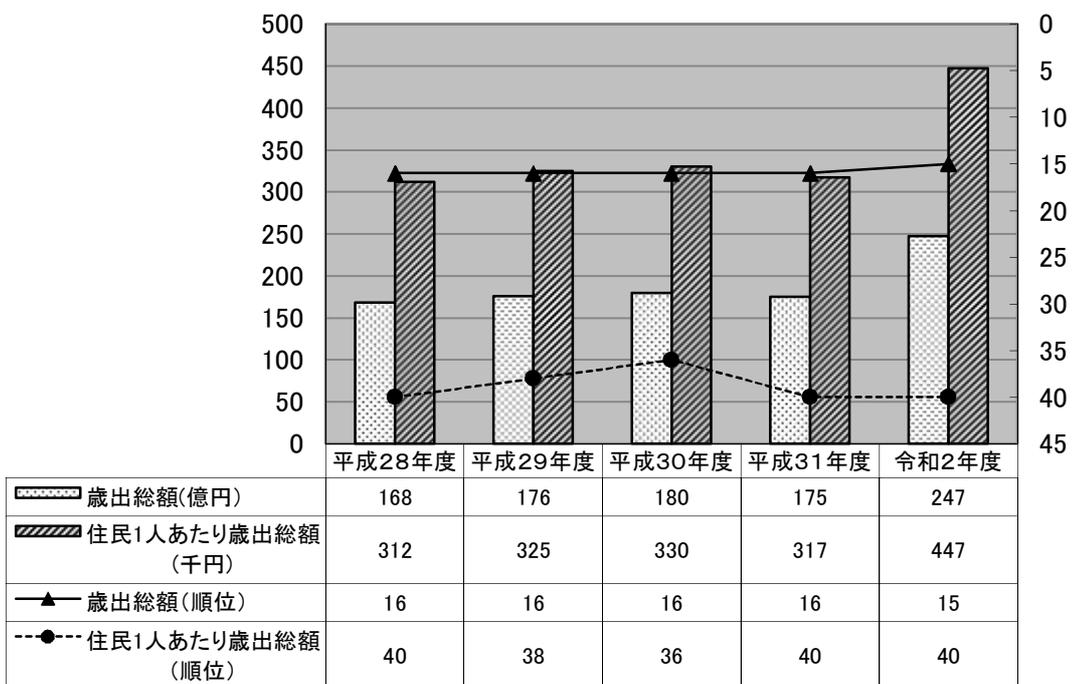
【分析】通常償還完了や過去の繰上償還の実施により、公債費が抑えられていることから、実質公債費比率は良好な水準を維持しています。一方で近年、繰上償還が実施されておらず、償還額削減が図られていないことから、令和2年度の公債費は微増しています。

## ○基金における比較



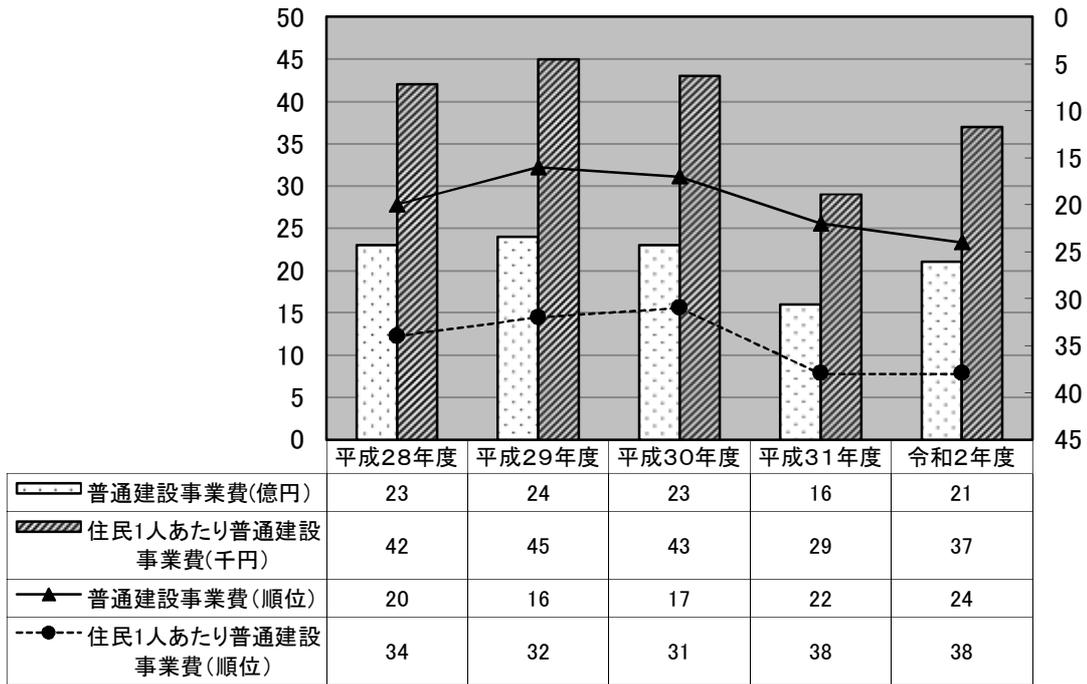
【分析】平成30年度に財政調整基金と特定目的基金の減少により、基金残高が減少しました。平成31年度は財政調整基金、特定目的基金が共に増加しています。令和2年度は特定目的基金への積立の一方で、財政調整基金と公共施設整備基金は取崩し、基金全体で12百万円減少しています。なお、財政調整基金は平成15年度（合併）以降、20億円以上の水準を維持しています。

## ○歳出総額における比較

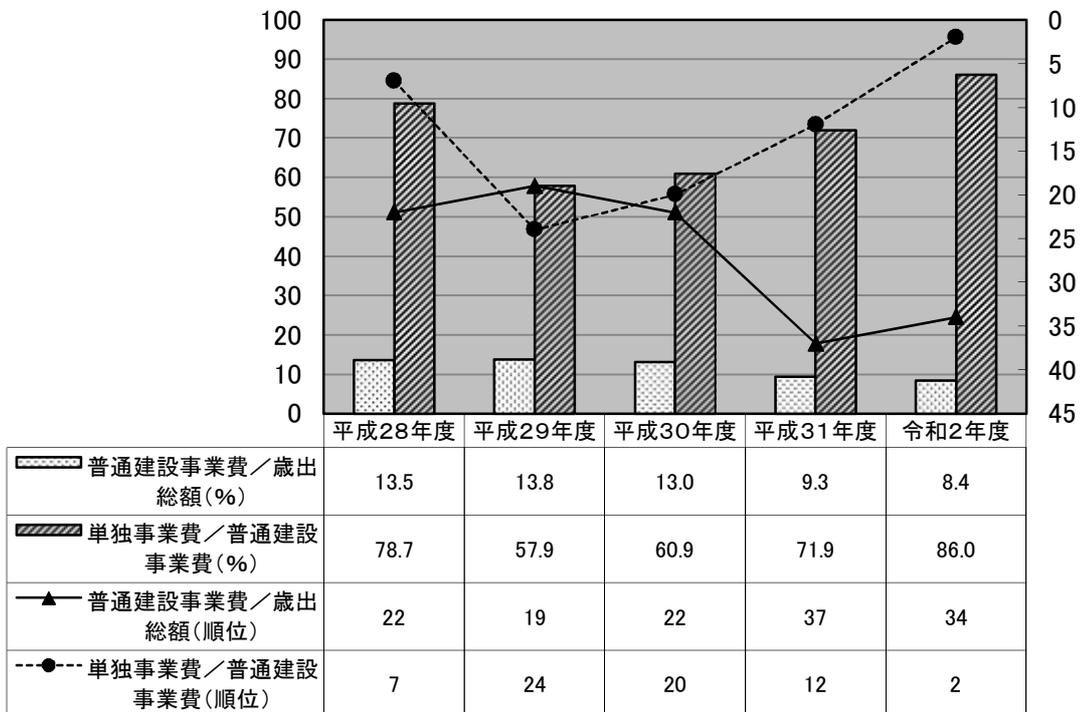


【分析】平成29年度、平成30年度までは普通建設事業費により増加傾向でした。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、特別定額給付金事業や感染症対策事業が実施された結果、歳出総額が大きく増加しています。

## ○普通建設事業費における比較

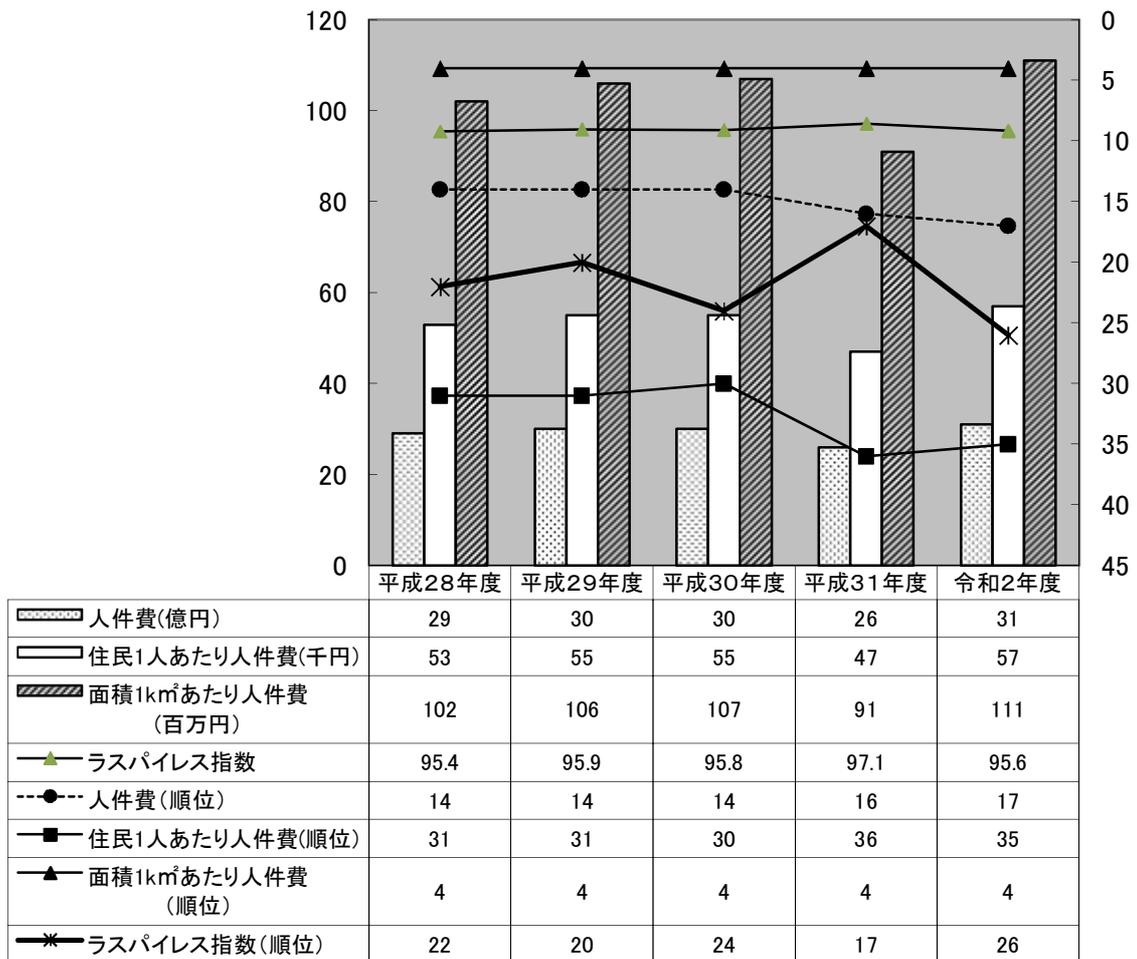


【分析】普通建設事業費は近年、牛牧排水機場改修事業、（仮称）柳一色歩道橋整備事業、（仮称）中山道大月多目的広場整備事業と大規模事業がありますが、令和2年度は駅前対策事業や道路新設改良事業により増加しています。



【分析】平成28年度に市単独事業であった中学校教室空調機器整備工事等が完了した事により、平成29年度は普通建設事業費に占める単独事業費の割合が減少しましたが、平成30年度は牛牧排水機場改修事業や穂積中学校テニスコート造成工事により増加し、平成31年度は補助事業が少なく、単独事業費の割合が増加、令和2年度は駅前対策事業の用地購入費等により増加しています。

# ○人件費における比較



【分析】人件費は、平成31年度は常備消防職員の岐阜市への移籍により減少、令和2年度は会計年度任用職員制度の導入により賃金が廃止、報酬等となったため増加しました。